

森林施業の問題点等に関するアンケート調査

課題1 森林情報の把握、内容、取り扱いについての問題点と対応

森林情報の把握については、GIS等の機器により技術的な問題はかなり解決されてきたと考えているが、運用面において3つの問題点があると個人的には解釈している。

1 森林の境界確定作業

森林所有者ですらわからない現状の中、施業を行うに当たっては施業区域を確定する必要があり、間伐が必要でも施業提案することに至らないケースも増加すると思われる。

2 森林情報のフォーマットの統一化と電子データの更新方法

デジタルデータとして管理する場合、事業体ごとに使用するソフトがばらばらであり、事業体や行政の間で情報共有が進まない現状がある。また、電子データはいつの時点で誰がどのように修正するか一定のルールのもと更新を行わなければならないが、行政の中でも森林計画、治山等のシステムの更新方法・時期がばらばらで、施業実績が林小班の境界と一致しない場合入力できないなどの問題が生じている。

3 個人データの保護と開示

森林データは、資産データでもあり個人情報に当たるがこれをどの機関がどのように管理し利用するか一定のガイドラインが必要である。

課題2 目標とされている森林施業のあり方に関する問題点と対応

現在、各地域で各種の育林技術体系が整理されているが、大半は濃密な施業を行った場合の指針である。放置されている森林が増えている現状では、適用できないケースが増加している。

一方、全国で行われ始めた提案型集約化施業では、森林所有者に森林の将来の姿を提示する必要がある。各研究機関で連携し、樹高、胸高直径、曲がりの具合、間伐率等の情報を入力することで素人でも容易にシミュレートできるソフトの開発は出来ないのか検討する必要がある。

課題3 森林計画の体系、内容等に関する問題点と対応

今の森林計画の基本となっている森林機能別3区分については、明確な区分がない中、1年にも満たない短い検討期間で作られたものであり、再検討が必要である。

択伐による長伐期施業は、森林を裸地化しないため公益的機能についても貢献しているという事実があり、森林を機能別に区分するという考え方より、林道からの距離等に応じた施業条件による区分を行い、それに対する技術体系を確立すべきである。

また、今の計画制度は森林資源全体の成長量を前提とした資源計画であるが、施業の実効性を高めるためには事業実施者の施行能力、木材加工業者の需要等も見越した総合的な森林利用計画に移行すべきではないか。

持続可能な森林経営研究会

<http://sfmw.net/>

課題4 森林計画の実行、森林施業の実行に関する問題点と対応

現在の森林計画制度における最大の問題点は監督機能の低下である。森林計画制度では伐採届や森林施業計画等で伐採の事前届出が必要で、この指導監督は市町村にゆだねられている。しかし、市町村の林業担当者は1名というところが多く、行政事務に追われ、全市町村域の森林の監督業務を行うのは、実質不可能であるといわざるを得ない。的確な管理監督業務の出来る体制整備を行うことが喫緊の課題である。

課題5 その他（自由にご意見を）

当研究会の協議内容は、今の林業の問題点を非常に的確に捉えており、感心しています。遠方のため一度も会に参加することが出来ておりませんが、林業の進展のためにぜひともすばらしい提言を行っていただきたいと思います。なお、討議の前にその課題についてメールにて意見等を募るような取り組みを検討していただければ幸いです。